

高等女子用習字本

埼玉私立教育會編纂
美澤禎毫

日用書類三ノ下

K/20.71
32.4a
3.2

K120.71

32.4a

3.2

埼玉私立教育會編纂
卷 菱澤揮毫

第三年後期

高等小學
女子用 習字本

日用書類

埼玉私立教育會藏版

留書中 去 少 視

切 度 及 少 見 壽

下 大 凡 凡 中 五 難

校 人 一 山 美 亦 久

Small vertical text on the left margin, likely a library or collection stamp.

今の陶も致し
此果は彼地の名産
ゆき少くは
慰まてに

今日も祇園祭へ
供へんと
遊び
妹たれ事

不快よて医師を逐
入催始末故糸里
苗山す古連申横へ
宜敷以形中上。

先白直に寄せ下さ
れ山様形ひ置山女
用文章まおる居
後川此使し者へ

河津下下さき夜
若く今不糸里中
さびしう急き取
奇せ下され度也。

公園に紅葉了度
見頃にお来は由承
里の中今午後分
古回道中上度存也

清友達とたれく
 様も出の筈も付
 思る如何に也
 初合はうのひやふ。

取桑見物と為め
 公園へ出たされ
 作りにて私まで
 以誘ひ下され

高麗新書 卷之四

三十一

五

何	里	か	く	持	ん	中	の
殊	よ	ま	り	連	中	故	
直	支	度	り	た			
直	毛	返	み	出	り	へ	く

信	柄	所	見	路	ひ	の	上
流	彌	四	五	反	り	ん	せ
下	さ	れ	度	は	直	殿	の
少	の	海	里	は	て	り	

御書 卷之九 三十一

成る丈よ後〜き

分_ニ形_ニ比_レ上_ル山_ノ序_ニ

花_ノ色_ノ猶_モ二三_ノ反

好_ク見_タいた〜度_也

昨_日白_き久_し〜之_レ渚

出_テ下_リさき_き了_レ后_不何

如_ク直_ニ愛_シ志_也由_レな_らく_恥

八_ノ名_ノさ_て涉_リ陶_り

萬葉集卷之九

遊いされ居後袂紗
一ツ産居多分迄
前様の清品と存
しゆまゝさし上り也。

一昨のちつね出けり
は七生致し物魔
中ふふ只今うに能く
の使あていたし入

全く私の冒頭忘れた
る品々の中の子数の
ほと皆の様にして宣
教は形中よ。

法頃を學校へ御
見元招きされまは
す如何な事を
事と立案し中よ

由しや清に加减を

もよ後しより後名也

一寸清少の世下は

水度ねんよ

清親切ふ清尋ね

下され誅清嬉友

存の風物之気味

て頭痛いたし故

K120,7

引籠居山重又入今
 日は気分宜敷山
 浦古安心下され
 比やう彩ひよ山。

高等科女子用

明治廿六年四月廿九日印刷
 全 年五月十日發行
 明治廿七年一月四日訂正再版印刷
 全 年一月八日發行

正價金五錢

著者兼
版權所有者

埼玉私立教育會

發行兼
印刷者

長島爲一郎

同

高野幸吉

埼玉縣北足立郡浦和町二百卅一番地

特別賣所

岩槻 水野武平
 栗橋 塚本元次郎
 加須 櫻井爲之助
 本庄 諸井巴
 小鹿野 柴崎久四郎

特別賣所

飯能 金子彌吉
 小川 高荷剛太郎
 東京 小林喜右衛門
 同 榊原友吉
 同 長島恭三郎

